

# 「対立」に向き合う 姿勢づくり



## ねらい

多様性を尊重する社会においては、お互いの「ちがいがぶつかりあう場面は避けて通れません。ぶつからないように距離をとることは、「ちがいを認めあう」のではなく、おたがいを避け、関わろうとしないことであり、ともに社会を生きるあり方とはいえないでしょう。求められているのは、ちがいを認めつつ積極的に関わりあおうとすることであり、そこではぶつかりあったとき、つまり対立が起こったときにどう向き合うかが重要になります。

とはいえ、現実には対立という否定的なイメージが強い人の方が多数でしょう。特に、対立＝争い・けんか・暴力、と思っている人も少なくないかもしれません。ぶつかりあうところにはエネルギーが生まれます。そのエネルギーが傷つけあう方に作用すれば、争いや暴力につながってしまうことも確かにあります。しかし、エネルギーは新しいものを生み出したり、状況を変えたりする力にもつながるのです。実際、人権の歩みは、社会的に困難な状況におかれた人たちが、「納得いかない」と異議申し立てや抗議の声をあげ、対立点としての課題を明確にすることを通して、多くの人々を巻きこみながら社会のしくみやあり方を変革してきたことの積み重ねです。であるなら、身近な対立も、そのエネルギーをよりよい関係をつくるきっかけにすることができるはずで

このプログラムでは、まずは対立についてのイメージを出し合い、わたしたちの社会がどのように対立を見ているかをふりかえります。そのうえで、実際に対立を適切に扱うためのスキルを身につけていく前提となる、対立に向き合う肯定的な姿勢づくりをめざします。

## プログラムの流れ

### ●対立のイメージを出し合おう

対立についてどんなイメージを持っていますか。率直に出し合い、イメージを広げてみましょう。苦手意識をもつ人が多いですが、実は「対立は悪くない」のです。

- アクティビティ：対立のイメージを色で対立についての連想図

### ●わたしたちの社会は対立をどうとらえている？

日本の社会は、対立やそれにかかわることがらについてどのようにとらえ、表現してきたのでしょうか。人権という観点から、どのように転換していく必要があるのでしょうか。

- アクティビティ：ことわざで考えよう

## ●対立にどう向き合うか

具体的な対立の場面には、どのような向き合い方があるでしょうか。対立に対し、否定的・消極的ではなく、肯定的に向き合う、とはどういうことかを考えます。

○アクティビティ：対立の扱い方

## ●対立を力に!

対立に肯定的に向き合うために、どんなことが大切か、学んだことをもとに表現してみましょう。

○アクティビティ：対立に肯定的に向き合うための川柳づくり

### 準備するもの

A3(B4)程度の白紙 A3(B4)程度の白紙(グループ数を3回分)

\*場合によっては模造紙を使ってもよい

マジック (グループ数)

プリント ことわざカード (ペアまたはグループ数)

プリント 事例カード (グループ数)

ホワイトボードと専用ペン (黒板も可)

## アクティビティの進め方

### ●対立のイメージを色で(15分)

「対立」ときいたときに、あなたはどのようなイメージをもちますか。そのイメージを色で表わすとどうなるでしょうか。同じ色をイメージした人で集まって、グループを作ってみてください。それぞれの色は、対立のどんなイメージからくるのでしょうか。話しあってみましょう。

▶色を確認しながら、人数が多いところは分け、少ないところは集めて、4~5人のグループにする

### ●対立についての連想図(20分)

もう少し、対立のイメージを具体的に考えてみます。

▶各グループに、白紙とマジックを配る

1. 紙の真ん中に「対立」と書いて、そこから連想するものをまわりにどんどん書いていってください。連想図といいます。どんなものでもかまいません。グループで話しながら、イメージを出しあいましょう。

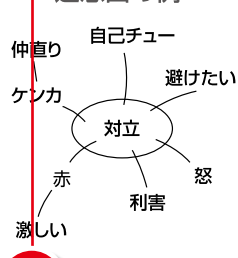
▶5~10分、作業の時間をとる

2. では、どんなものが出たか、簡単に発表してください。前のグループからは、出ていないような点を中心をお願いします。

そもそも、「対立」とはどんなときに起きるのでしょうか。意見や立場のちがいがあるときではないでしょうか。ならば、「お互いのちがいを大切にすると」という人権尊重社会では、対立は避けて通れないものです。みなさんと共有したいのは、「対立は、それ自体は悪いものではない」ということ。「対立」が悪いのではなく、「対立の扱い方」を間違えて、それが争いや暴力になることが問題なのです。

1

連想図の例



2

## ●ことわざで考えよう(30分)

日本では、対立をどのようにとらえてきたのでしょうか。身近なことわざや慣用語から考えてみましょう。

▶ **プリント** **ことわざカード** を配る

1. あなたにとって、いちばん共感できるものはどれですか。そのことわざの意味することは、あなたの対立のイメージとどんな関係があるのでしょうか。グループまたはペアで話し合ってみてください。

▶ 時間に余裕があればグループに。ない場合ペアでするのがよいでしょう

2. これらのことわざの示すありようで、対立にむきあうことには、どのような利点や限界があるのでしょうか。整理して考えてみましょう。

▶ 白紙とマジックを配り、板書した表の見本を書き写し分析してもらおう。  
1グループにつき、2~3のことわざを取り上げる

3. 分析してみて感じたこと・気づいたこととあわせて、発表してください。

▶ 発表してもらおう

いままでの社会では、同質であることや、力関係を理解してそれに従うことが重視されてきた面があるのではないのでしょうか。しかし、これからめざすべき社会は、多様性を尊重し、対等な関係でお互いを尊重しあうものです。そのために、対立に肯定的に向き合う姿勢を育てることが大切です。

## ●対立の扱い方(40分)

では、対立の場面でどのようなことができるのか、具体的に考えてみましょう。

▶ **グループに1つの事例カードと、白紙を配る**

それぞれの対立の事例に対して、どのような対応が考えられますか。できるだけいろんなパターンを考え、手元の紙にメモをしてみてください。「自分だったらどうするか」だけでなく、「こんなやり方もあるかも」と、バラエティにとんだ方法を考え出してみてください。

どのくらいアイデアが出たでしょうか。では、新しいアイデアを出すのは終わって、出てきたものを少し見てみましょう。

そのなかで、対立に「肯定的に」向き合っている、と思えるのは、どの対応でしょうか。どういった点が「肯定的」だと思うか、実際にできそうか難しそうか、などについて話し合ってください。

(あわせて逆の視点から、暴力的・否定的な向き合い方になっているものも考えてもらうのもよいでしょう)

▶ 話し合いのあと、簡単に発表してもらおう

いま、考えていただいたのは、「よい解決策」ということではありません。関係性や状況によって、どの対応をとるかはさまざまですから、解決策の正解があるわけではありません。

大切なことは、対立にはいろんな向き合い方があり、関わる人みんなができるだけ納得できる方法を選ぶことができる、ということです。対立の場面では、「どちらか一方の言い分しか通らない」「選択肢は二つに

表の見本

	利点	限界
ことわざ①		
ことわざ②		

対象となる参加者に応じて使う事例をえらんでください。

市民対象なら家庭編・地域編、職場研修なら職場編など。

4

一つしかない]などと思ってしまいがちです。そうではなく、「みんなが満足できるにはなにが大切か」「ほかにも方法はないだろうか」と考えること、それが対立に肯定的に向き合う、ということではないでしょうか。

## ●対立に肯定的に向き合うための川柳づくり(15分)

最後に、今日、学んだことをふまえて、「対立に肯定的に向き合うための川柳」をつくってみましょう。いままでよりは、対立を前向きにとらえられるようになったでしょうか。

完成したら、お互いに発表・共有しましょう。

▶つくった川柳を発表してもらおう

5

## ■ファシリテーターのために

### 対立と事実・感情・価値観

多様性を尊重する社会では、対立に肯定的に向き合うことが大切、ということは、理屈としては分かっていても、実際にはなかなか難しい、と感じる人は多いかもしれません。そこには、わたしたちの「気持ち(感情)」が大きく関わっているのではないのでしょうか。対立の場面では、さまざまな感情、なかでも怒りの感情が刺激されること多いのですが、わたしたちは感情を適切に扱うことに慣れていないうえ、怒りは感情のなかでも最も扱うのが難しいと言われているのです。

### ●感情の扱い方

感情の扱い方には、大きく分けて「抑圧する」「支配される」「コントロールする」の3つのパターンがあります。「抑圧する」というのは、自分の気持ちを抑え込み、感じていることを否定したり合理化したりすることです。その感情を引き起こすきっかけとなる相手を避け、自分の内面にももってしまうことになりがちです。「支配される」というのは、自分の気持ちにふりまわされてしまい、過剰な行動をとったり、相手のせいにしたりと、攻撃や暴力につながりやすい状態です。長い間、感情を抑圧してきた結果、たえきれなくなって爆発することもあるので、「抑圧する」と「支配される」は正反対のようで、じつはとても近いともいえます。

3つめの「コントロールする」というのは、「抑圧する」とは違います。自分の感情をありのままに把握し、自分がどうしたいか、まわりにどう伝えたいかを踏まえて、表現や行動を選択する、というあり方です。

適切に感情を扱う、とは、自分の感情に意識を向け、その感情に名前をつけて(嬉しい・悲しいなど)明確にし、ありのままに受け止めて、どう表現するか、行動するかを考える、というステップを踏むことです。ポイントは、感情を「よい・わるい」で判断しないこと。感情は、どれも大切なものなのです。

### ●怒りの感情

怒りの感情が生じたとき、「支配される」パターンになってしまうことが多く、そこに現れる攻撃性や暴力性のために、怒りの感情そのものを否定的にとらえてしまいがちです。

だからこそ、「怒り」についてじっくり深める機会を積極的にもちたいものです。ちょっとした対立から、とても大きな・深刻な対立まで、それぞれの段階での「気持ち」をふりかえることで、自分がふだんどのように怒りを感じ、

※人権学習シリーズVol.4  
『ちがいのとびら』に掲載されている、「怒りの温度計」(同書23頁)の活動が参考になるでしょう。

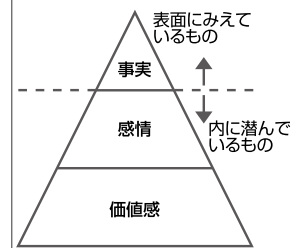
扱っているかをふりかえることができます。また、ほかの人と話し合うことで、おたがいの感じ方のちがいを知ることができます。これは当たり前のようで重要なことです。気持ちの中でも「怒り」の感情は、「あの人が〇〇したから」と、相手のせいにしてしまいがちです。しかし、他者の行為はきっかけであって、それによってどのような感情を持つかは自分自身なのです。同じできごとであっても、誰もが同じように感じるわけではありません。自分にとって許せないくらい腹立たしいことでも、相手はなんでもないことと感じているかもしれません。それを、「誰だって怒るはず(のひどいこと)なのに、それをなんでもないように言うなんてひどい」と受け取ってしまうと、さらに対立がこじれてしまいます。

自分の感情を引き受け、責任を持つことは、感情を扱ううえで大切なことです。「あの人のせいだ怒っている」と「あの人が〇〇したことに、わたしは腹が立つ」というのは、ちがうのです。自分の感情を引き受け、責任を持ったうえで、相手と向き合うことが、対立に肯定的に向き合う際の感情の扱い方に求められます。

●「事実」「感情」「価値観」を整理する

「感情」を適切に扱うためには、「事実」と「感情」を分けて考えることが大切です。そこで起こっている客観的な「事実」は何なのか、それに対してそれぞれの当事者がどう「感じて」いるのか、を整理してみるのです。また、どのように感じるかの背景には、「価値観」があります。価値観は多様ですから、なにを大切だと思うか、なにが譲れない点だと思うかは人によって違うのです。

対立の場面でのできごとを、一方からのみ見るのではなく、それぞれの「感情」「価値観」までさかのぼって整理することで、なにをめぐると対立かの焦点も変化してくるでしょうし、なにより、お互いの理解が深まります。それこそが、対立をよりよい変化につなげるためのエネルギーとし、多様性を尊重する社会づくりの第一歩なのです。



プリント

ことわざカード

雨降って地固まる	無理が通れば道理が引っ込む
長いものにはまかれる	柳に雪折れなし
和して同ぜず	こけつ 虎穴に入らずんば こじ 虎子を得ず
負けるが勝ち	言わぬが花
出るくいは打たれる	終わりよければすべてよし

(拡大して切りとって使ってください)

〈家庭編〉	〈地域編〉	〈職場編〉
<p>○子どもが門限を破った (初めての場／5回 目の場合)</p>	<p>○ゴミの収集日を守らな い近所の人に対して</p>	<p>○必ず会議に遅れてくる 人(同僚／部下／上司) がいる</p>
<p>○置いてあった携帯電話 を勝手に見られた(夫 婦間で／親子間で)</p>	<p>○地域の共同清掃に出 てこない人に対して</p>	<p>○仕事があるのに「ノー 残業デー」だから帰れ と言われる</p>
<p>○自分が掃除機をかけた 後に、「ホコリが残っ ている」と言われた</p>	<p>○町内会の議事を古くから 住んでいる人だけで決 めてしまうことに対して</p>	<p>○湯飲みは各自で片付け るが、給湯室の掃除は 女性がしている</p>

※切りとって使ってください

## ねらい

多様性を尊重する社会においては、お互いの「ちがいがぶつかりあう場面は避けて通れません。ぶつからないように距離をとることは、「ちがいを認めあう」のではなく、おたがいを避け、関わろうとしないことであり、ともに社会を生きるあり方とはいえないでしょう。求められているのは、ちがいを認めつつ積極的に関わりあおうとすることであり、そこではぶつかりあったとき、つまり対立が起こったときにどう向き合うかが重要になります。

とはいえ、現実には対立という否定的なイメージが強い人の方が多数でしょう。特に、対立=争い・けんか・暴力、と思っている人も少なくないかもしれません。ぶつかりあうところにはエネルギーが生まれます。そのエネルギーが傷つけあう方に作用すれば、争いや暴力につながってしまうことも確かにあります。しかし、エネルギーは新しいものを生み出したり、状況を変えたりする力にもつながるのです。実際、人権の歩みは、社会的に困難な状況におかれた人たちが、「納得いかない」と異議申し立てや抗議の声をあげ、対立点としての課題を明確にすることを通して、多くの人々を巻きこみながら社会のしくみやあり方を変革してきたことの積み重ねです。であるなら、身近な対立も、そのエネルギーをよりよい関係をつくるきっかけにすることができるはずで

このプログラムでは、まずは対立についてのイメージを出し合い、わたしたちの社会がどのように対立を見ているかをふりかえります。そのうえで、実際に対立を適切に扱うためのスキルを身につけていく前提となる、対立に向き合う肯定的な姿勢づくりをめざします。

## 学習に入る前に

- ・参加者との出会いを大切にしましょう。
- ・参加体験型で始まるというイメージづくりも必要です。  
(詳しくは13ページ参照)

## 参加体験型学習の説明

皆さんこんにちは。

### ○参加体験型学習とは

今日は参加体験型学習（ワークショップ形式）で、対立について学びます。

「ワークショップ」というのは、もともと「工房・作業場」という意味、つまり何かを作り出す場、ということです。ですから、今日の参加体験型学習では、学びを作り出すことをめざしています。作り出すのは、参加者の皆さんです。やりとりしながら、それぞれの方にとって「なるほど」と思えることや「こうしてみよう」と思えることが生まれればよいと思います。

### ○ファシリテーターの自己開示

今日のわたしの役割は、皆さんの気持ちや考えを大事にしなが

## ワンポイント

- ☆自分の気持ちや状態に向き合う。
- ☆参加者が不安にならないよう、簡単に自分の気持ちを伝える。
- ☆共に学ぶというスタンスを大事にする。

## 学習を始める

### ○学習のねらいの説明

今日のテーマの「対立」ですが、「対立が好きだ、得意だ」という方はなかなかいらっ  
しゃらないのではないのでしょうか。けれど、人権尊重と対立は切っても切れないものなの  
です。一人ひとりの個性・違いを尊重しよう、ということは、皆さんも合意していただ  
けたいと思います。「違いを豊かさに」ということもよく言われます。とはいえ、実際に一緒  
にやっていくときに違いがあると、そうすんなりいくことばかりではなく、いろいろな調  
整が必要だったり、ときにはぶつかり合ったりすることもあるわけです。それがいやで、  
避けたり距離を置いたりしてしまうことは、「お互いを尊重する」とはいえないのではな  
いでしょうか。

「違いを豊かさに」する関係を育むために、「対立」にしっかり向き合ってみよう、と  
いうのが今日のねらいです。

### ○ルールの説明

(詳しくは13~14ページ参照)

## 1 対立のイメージを色で (15分)

### ●対立のイメージを色で(15分)

「対立」ときいたときに、あなたはどのようなイメージをもちますか。  
そのイメージを色で表わすとどうなるでしょうか。同じ色をイメージした  
人で集まって、グループを作ってみてください。それぞれの色は、対立  
のどんなイメージからくるのでしょうか。話しあってみましょう。

- ▶色を確認しながら、人数が多いところは分け、少ないところは集め  
て、4~5人のグループにする

3分

色のイメージで  
グループ分け

5分

グループ内で  
自己紹介と  
イメージの共有

5分

グループでの  
話し合いの発表

まずは、お互いのイメージを出し合うところから始めてみましょう。

「対立」と聞いたときに、どんなイメージを持ちますか。そのイメージを色で表して  
みてください。



はじめの席のままで良い。様子を見ながら、30秒程度時間をとる。

では、同じ色をイメージした人で集まって、グループを作りましょう。立ち上がって、お互いに何色をイメージしたか、声を掛け合いながら、同じ色の人で集まってください。

だいたい、1グループ3~5人程度だと思いますので、6人以上集まったところは半分に分かれてください。同じ色の人がない、という方はありますか。少ないところは違う色で集まっていただいてかまわないので、グループになってください。グループができたら座ってください。

参加者に動いてもらい、自由にイスを動かしてグループになって座ってもらう。同じ色の人を参加者自身が探す活動なので、あまり介入する必要はないが、最後のほうで1人か2人で相手が見つからない人がいるようなら、グループにする手助けをする。  
また、6人以上で集まっているところは、3~5人になるように分かれてもらう。

## こんな場合

「色は2色以上でもいいんですか」「形のイメージなんですけど、どうしたらいいですか」などの質問が出ることもある。この活動は、最初のウォーミングアップをかねて、対立についてのイメージを共有することが目的なので、どんなイメージでも自由に出してもらってかまわない。「2色（またはそれ以上）のグループ」をつくったり、「形と関連した色はないですか」と問いかけて近い色のグループに入ってもらったりして、あまり細かいことにこだわらずにグループ作りを促す。

それでは、グループごとに簡単に自己紹介をしていただいて、なぜ、その色を選んだか、対立についてどんなイメージを持っているか、話し合ってください。3~5分程度時間をとります。

グループごとで話をしてもらう。3分程度たったところで、「いまだ3分ですが、全員話せそうですか。まだお一人しか話していないところがあれば、少しペースを早めてください」と促す。  
ほとんどのグループが話し終わって、別の話題などに移っているようなら、「だいたい終わったでしょうか」と少し早めに切り上げてかまわない。

グループで出た話を少し発表して共有したいと思います。

こちらのグループでは何色を選ばれたでしょうか。その色はどんなイメージからきていますか。いまグループで話し合われたことを、簡単に紹介していただけますでしょうか。

順に発表してもらう。グループの数が少なければ全グループに、多ければいくつかに絞る。いくつかに絞る場合は、違う色になるように選ぶ。

## ② 対立についての連想図 (20分)

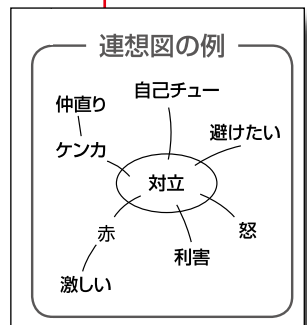
### ● 対立についての連想図(20分)

もう少し、対立のイメージを具体的に考えてみます。

▶各グループに、白紙とマジックを配る

- 紙の真ん中に「対立」と書いて、そこから連想するものをまわりにどんどん書いていってください。連想図といいます。どんなものでもかまいません。グループで話しながら、イメージを出しあいましょう。  
▶5~10分、作業の時間をとる

- では、どんなものが出たか、簡単に発表してください。前のグループからは、出ていないような点を中心にお願ひします。



3分

机などの設営

10分

「連想図」グループ作業(説明3分+グループ7分)

5分

グループ発表

2分

ファシリテーターからのコメント

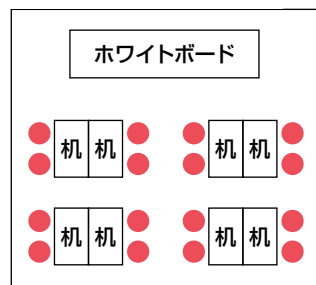
続けて、もう少し対立のイメージを具体的に考えてみます。  
グループごとに机を出して、白紙とマーカーを用意してください。

先ほどと同じグループのまま、各グループから1人、紙とマーカーを取りに来てもらおう。あとの人で机を用意してもらおう。グループごとに座ってもらおう。

### ワンポイント

グループごとに座るときは、ホワイトボードに向かって机を縦に配置すると、どの参加者からも板書が見やすくなります(横にすると半分の人には背中を向けることになるため)。

【例図 机の配置】

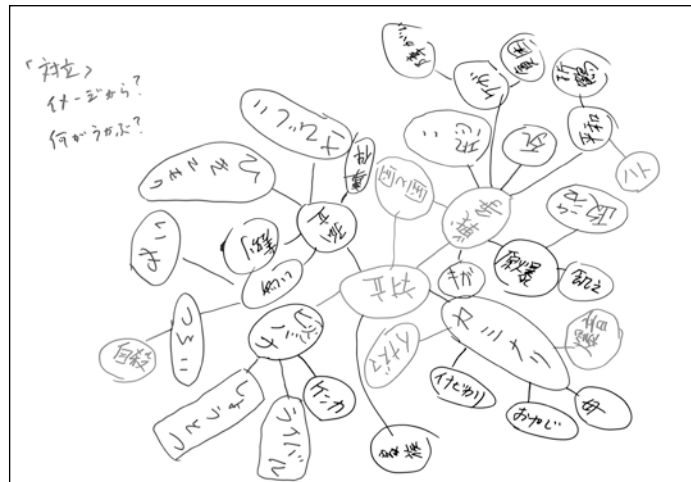


紙の真ん中に「対立」と書いて、そこから連想するものをまわりにどんどん書いていってください。「連想図」といいます。出てきたものに関連があるときは、線でつないでいきます。例えば、先ほどの色のイメージで「赤」のグループでしたら、「対立」から「赤」と書いてつなげて、さらに「赤」のイメージで「激しい」、といったように。それ以外にも、いろいろな枝を出して、どんどんイメージを広げていってください。

皆さん、1本ずつペンを持って、紙のいろいろな方向から書いていきましょう。しゃべりながら、出てきたものはとりあえず書くという感じでお願ひします。

説明しながら、例（39ページ参照）を板書する。会場をまわり、あまり書いていないグループには、「さっきの色のイメージではどんな話が出ましたか」「しょうもないかな、と思うものでも、とりあえず書いてみてください」と、積極的に書くように促す。

【実際に書かれた連想図】



では、どんなものが出たか、簡単に発表してください。前のグループからは出ていないような点を中心にお願いします。

グループで作業した模造紙を貼り出し、ファシリテーターが紹介してもよい。その際には、複数のグループで共通している点を指摘したり、逆にユニークな点を「これはどういう話で出たてきたのでしょうか」と質問したりする。

## こんな場合

参加者から出てくるものには、以下のようなものがある。それぞれに関して、ファシリテーターが話すポイントとあわせて整理しておく。

### ●「対立」の場面 例：ケンカ（きょうだい、夫婦）、○○vs△△

→具体的な場面を思い浮かべる方も多いようです。「対立」を経験したことのない人はいない、ということでもあるのではないのでしょうか。それぞれの経験によって、対立のイメージも変わってくると思います。

### ●気持ち・感情 例：怒り、避けたい、傷つき、悲しみ、涙

→「対立」の場面では、さまざまに、そして激しく感情が動きます。その多くは“否定的”といわれる感情で（本来、感情には“良い悪い”はないのですが）、どう対処していいかわかっていません。中でも、「怒り」の感情はエネルギーがあって、自分でもうまく扱えないことが多いものです。そのことが「対立」に向き合うことを難しくさせているのかもしれませんが（33ページ「ファシリテーターのために」参照）。

### ●マイナスイメージ 例：暴力（たたく、ける）、争い、戦争、決裂

→こうしたマイナスイメージが「対立」とイコールでとらえられていることが、残念ながら多いようです。けれど、これらは「対立」の一面である、ということを知っていただきたいと思います。

## こんな場合

### ●プラスイメージ 例：仲直り、理解が深まる

- 「対立」を経たからこそ到達できる関係、というのもあるのではないのでしょうか。
- （プラスイメージが出ていないとき）「対立」はマイナスイメージばかりでしょうか。それ以外はないですか？

例：ケンカの終わり方にはどういったものがありますか。ケンカをしてよかった、という経験を持つ方はいらっしゃるのでしょうか。  
など問いかけると、イメージがふくらみます。

そもそも、「対立」とはどんなときに起きるのでしょうか。意見や立場の違いがあるときではないのでしょうか。ならば、「お互いの違いを大切にする」という人権尊重社会では、対立は避けて通れないものです。皆さんと共有したいのは、「対立は、それ自体は悪いものではない」ということ。「対立」が悪いのではなく、「対立の扱い方」を間違えて、それが争いや暴力になることが問題なのです。

## ワンポイント

このあたりで一度グループを変えるのもよい。ずっと同じグループだと、グループの中で話す人と話さない人が固定したり、活発なグループとそうでないグループが出たりしてしまう。

グループを変更するには、参加者に番号を言ってもらうのが、いちばん簡単なやり方である。参加者の人数を4で割った数字を順に言ってもらい、同じ数字の人で集まってもらくと4～5人のグループができる。

### 例) 26人の参加者の場合

$26 \div 4 = 6$ あまり2、なので、1～6の数字を順に言ってもらう。「1」「2」のグループは5人、「3」～「6」のグループは4人、の6つのグループができる。

## ③ ことわざで考えよう

### ● ことわざで考えよう(30分)

日本では、対立をどのようにとらえてきたのでしょうか。身近なことわざや慣用句から考えてみましょう。

▶ **プリント** **ことわざカード** を配る

1. あなたにとって、いちばん共感できるものはどれですか。そのことわざの意味することは、あなたの対立のイメージとどんな関係があるのでしょうか。グループまたはペアで話し合ってみてください。

▶ 時間に余裕があればグループに。ない場合ペアでするのがよいでしょう

2. これらのことわざの示すありようで、対立にむきあうことには、どのような利点や限界があるのでしょうか。整理して考えてみましょう。

▶ 白紙とマジックを配り、板書した表の見本を書き写し分析してもらう。

1グループにつき、2~3のことわざを取り上げる

3. 分析してみて感じたこと・気づいたこととあわせて、発表してください。

▶ 発表してもらう

7分

資料説明と  
ペアで話し合い  
設営

13分

表での分析  
(説明3分+  
グループ10分)

8分

発表

2分

ファシリテーター  
のコメント

日本では、対立をどのようにとらえてきたのでしょうか。身近なことわざや慣用句から考えてみましょう。

「ことわざカード」をお配りします。

1人1枚ずつ行き渡るようにプリント(34ページ)を配る。

「対立」に関連するかな、と思われる10個のことわざが書いてありますが、あなたにとっていちばん共感できるものはどれでしょうか。そのことわざは、あなたの中で「対立」のイメージとどうつながっていますか。グループをさらに分けて、隣の人と2~3人で短く話し合ってみてください。

3分程度時間をとる。

これらのことわざが示す「対立」への向き合い方を整理してみましょう。

新しい紙を使いますので、取りに来てください。

それぞれのことわざを「利点と限界」という視点で分析してみます。紙にこのような表を書きます。

ファシリテーターは表の見本を板書する。

左側に書いたことわざの示すようなあり方で対立に向き合うことの「利点」つまりよいことを真ん中の欄に、「限界」つまり難しいことを右の欄に書いてください。

分析することわざは、皆さんが共感できるものとして取りあげたものを記入してください。全部できなくてもかまいませんが、2~3個はやってみましょう。

10分程度時間をとります。

[表の見本]

	利点	限界
ことわざ①		
ことわざ②		

[表を使い実際に分析した例]

	利点	限界
雨降って地固まる	相手の考え方がわかる	わかたない時もある
総取りは林はあてなし	「総取りは林はあてなし」 みんなが同じであること 同じであるようにふるまう。	本当に解決してる? お互いに妥協してる。納得してる。
負けが勝ち	対立しないこと。相手を尊重する (相手)	自分の意見が言えない。
出さねは打たれる	違いを排除できる	違う意見を受け入れられない。

会場をまわりながら、グループの話し合いを促す。

ある程度、分析できたでしょうか。あと2~3分、話し合いをつづけていただきますが、いまやっていることわざの分析が終わったら、やってみて感じたこと、気づいたことを話し合ってください。それを発表していただこうと思います。

様子を見ながら、個別のことわざの分析から、ことわざが示している「わたしたちの社会の対立のとらえ方」について、気づいたこと、発見したことを話し合ってもらおうように促す。

では、各グループから発表をお願いします。書いたことを全部読み上げる必要はありません。やってみて、感じたこと、気づいたことを中心に、1分程度でお願いします。

順に発表してもらおう。

いままでの社会では、同質であることや、力関係を理解してそれに従うことが重視されてきた面があるのではないのでしょうか。しかし、これからめざすべき社会は、多様性を尊重し、対等な関係で互いを尊重しあうものです。そのために、対立に肯定的に向き合う姿勢を育てることが大切です。

## ワンポイント

発表の内容に応じて、「ファシリテーターのために」（33ページ）の内容も、適宜、講義形式で紹介してもよい。

## 4 対立の扱い方

### ●対立の扱い方(40分)

では、対立の場面でどのようなことができるのか、具体的に考えてみましょう。

▶グループに1つの事例カードと、白紙を配る

それぞれの対立の事例に対して、どのような対応が考えられますか。できるだけいろんなパターンを考え、手元の紙にメモをしてみてください。「自分だったらどうするか」だけでなく、「こんなやり方もあるかも」と、バラエティにとんだ方法を考え出してみてください。

どのくらいアイデアが出たでしょうか。では、新しいアイデアを出すのは終わって、出てきたものを少し見てみましょう。

そのなかで、対立に「肯定的に」向き合っている、と思えるのは、どの対応でしょうか。どういった点が「肯定的」だと思うか、実際にできそうか、難しそうか、などについて話し合ってください。

(あわせて逆の視点から、暴力的・否定的な向き合い方になっているものも考えてもらうのもよいでしょう)

▶話し合いのあと、簡単に発表してもらう

12分

カードの配布と説明、グループの話し合い

12分

次の話し合いの説明、グループの話し合い

13分

発表順の声かけ、各グループの発表

3分

ファシリテーターのコメント

では、対立の場面でどのようなことができるのか、実際にどのように扱っているのか、具体的に考えてみましょう。

「事例カード」をお配りします。

1グループに1つの事例カード(35ページを切り抜いたもの)を配る。

### こんな場合

対象となる参加者に応じて使う事例を選んでください。

市民対象なら家庭編・地域編、職場研修なら職場編など。

さらに言うなら、ファシリテーター自身で事例を作ってもらっても結構です。

皆さんのお手元のカードには、身近にありそうな「対立」の事例が書いてあります。実際にその対立の場面に遭遇したら、どのような対応の可能性があるでしょうか。新しい白紙をお配りしますので、グループで話し合いながら、対応のパターンを書き出してみてください。「自分だったらどうするか」だけでなく、「自分はしないけど、こんなやり方もあるかも」というものなど、できるだけバラエティにとんだアイデアを出し合ってみましょう。10分程度時間をとります。

グループごとに白紙を配るか、取りに来てもらう。  
話し合いが始まったら、会場を見てまわり、話し合いを促す。

### ワンポイント

「対応のパターンのアイデアは、10個以上出してください」というように、具体的な数をあげると話し合いが活性化します。ファシリテーターも事前に考えてみましょう。

いったん話し合いを終わってください。どのくらいアイデアが出たでしょうか。続けて話し合ってくださいますが、こんどは新しいアイデアを出すのではなくて、出てきたものを少し検討してみます。

対応のパターンのアイデアの中で、対立に「肯定的」に向き合っている、と思えるのはどれでしょうか。どういった点で「肯定的」だと判断しますか。また、実際にその対応をとることはできそうでしょうか、難しそうでしょうか、それはなぜでしょうか。話し合ってみていただけますか。

会場をまわりながら、グループの話し合いを促す。

### こんな場合

「肯定的」に向き合っていると思えるものがない、というグループがある場合は「肯定的なものが出なかったのはなぜでしょう。」「肯定的な対応を、あらたに考えてみてくださいいただけますか。」といった問いかけをしてみましょう。

発展として、「暴力的・否定的な向き合い方になっているもの」も考えてもらうこともできます。

どういった点で「暴力的・否定的」なのか、そういった対応をとってしまうのはどんなときか、などを話し合います。

どのような話が出ていますでしょうか。このあと、発表していただきますが、話し合い全体でなくて、話し合いを通して気づいたこと、発見したことを共有していただきたいと思います。あと3分程度時間をとりますので、少し、発表するポイントを整理していただけますか。

では、いまの話し合いで気づいたこと、発見したことを各グループから1分程度でお願いします。



順に発表してもらおう。

いま、考えていただいたのは、「よい解決策」ということではありません。関係性や状況によって、どの対応をとるかはさまざまですから、解決策の正解があるわけではありません。

大切なことは、対立にはいろいろな向き合い方があり、関わる人みんなができるだけ納得できる方法を選ぶことができる、ということです。対立の場面では、「どちらか一方の言い分しか通らない」「選択肢は二つに一つしかない」などと思ってしまいがちです。そうではなく、「みんなが満足できるには何が大切か」「他にも方法はないだろうか」と考えること、それが対立に肯定的に向き合う、ということではないでしょうか。

## 5 対立に肯定的に向き合うための川柳づくり

### ●対立に肯定的に向き合うための川柳づくり(15分)

最後に、今日、学んだことをふまえて、「対立に肯定的に向き合うための川柳」をつくってみましょう。いままでよりは、対立を前向きにとらえられるようになったでしょうか。

完成したら、お互いに発表・共有しましょう。

▶つくった川柳を発表してもらおう

3分

ファシリテーターのコメントと川柳づくの説明

3分

川柳を考える時間

9分

発表・終わりのコメント

学習のはじめにも言ったとおり、お互いの違いを大切に、多様性を尊重しようとするならば、対立は避けて通れません。大切なのは対立にどのように向き合うかであって、「対立そのものは悪くない」ということが、皆さんと確認したいポイントです。

対立を避けようとするのは、解決ではなく、問題を表面上見えなくするだけで、関係をこじらせたり、より深刻な対立につながったりすることさえあります。もちろん、暴力的な向き合い方は、お互いを尊重することにはなりません。柔軟な発想で、対立に肯定的に向き合う姿勢を持つように心がけたい、ということで、最後に、今日学んだことをふまえて、「対立に肯定的に向き合うための川柳」をつくってみましょう。「対立」のイメージはどのように変わったでしょうか。いままでより前向きにとらえられるようになったでしょうか。学んだことで書き留めておきたいことと合わせて、ノートかレジュメにメモしてください。

ファシリテーター自身も、その場で川柳を考えてみましょう。

では、完成したものを発表してください。

### ワンポイント

参加者が20人くらいまでの場合 全体発表

お1人ずつ、順に川柳を読み上げていただけますか。（時間があれば、机を片づけて  
いすのみで円形に座り、お互いの顔が見える状態で発表するとよい）

参加者がそれ以上の場合 グループ内で発表して、その内の1つを全体で発表

それぞれのグループで、1人ずつ順に発表してください。その中で、全体に共有した  
ものを1つ、選んでいただけますか。（グループ内発表3分、全体発表5分）

今日は、お互いの違いを大切にしたい人権尊重のための対立の扱い方について、まずは肯定的に向き合う姿勢づくりに取り組みました。

実際に対立を扱うには、姿勢や心がけだけでなく、具体的なスキルも身につける必要があります。コミュニケーションをテーマにした学習や、対立について扱った書籍も、最近はいろいろとありますので、関心のある方は、ぜひ学んでみてください。

ご参加ありがとうございました。

### ワンポイント

より学びたい人のために、人権学習シリーズ vol.5 『ぶつかる力 ひきあう力 ー対立と解決ー』を紹介するとよいでしょう。

